

介護の現場から

知っていますか？小規模多機能型居宅介護

介護保険サービスのひとつとして、平成十八年度の介護保険改正で出来た地域密着型サービス。

「通いを中心に、本人の様子や希望に応じて、宿泊、訪問のサービスを組み合わせ、自宅で継続して生活するために必要な支援をしてくれるところ」

そんな説明があってもなかなか分かりづらい。そこで、実際にサービスを提供している、ニチイのやわらぎを訪ねて、管理者の鈴木時枝さんにお話を伺いました。（対象者や通所人数、宿泊人数などは施設によって異なります）

●利用できる対象者は？
地域密着型なので、矢板市に住所のある要介護者の方です。

●人数の受け入れは？また、一日の通所、宿泊の人数は？
施設としての登録人数は二十五人。通所が一日十五人、宿泊は六人です。

●利用料金は？

サービスの量にかかわらず定額制（月額）です。食費、宿泊費、日常生活費は別料金になります。

●一般の通い、宿泊などの利用と大きく違うところは？

同じ施設で、通い、宿泊訪問のサービスを組み合わせ利用できるので、利用者さんはいつも顔なじみの職員で安心できることです。



特に、うことで、その人にあつ環境の変化に敏感な認知症の方の不安を和らげるのに役立っていますね。二十四時間、三六五日安心を届けるといった使い方、例えば通いでは六時から二十一時までの間に必要に応じて利用できます。ご家族の都合で早く来所され施設で朝食を摂るとか、入浴だけされて短時間で帰るとか。また、どのサービスでも緊急時には臨機応変に対応させていただきます。

●みなさんに伝えたいことなどありますか？

小規模多機能型にもっと興味を持って欲しいです。「住み慣れた地域の中で、継続的な支援」「地域の人たちと共に開かれた施設」を目的としているので、見学やお茶飲みにぜひいらしてください。行事があるときなど近辺の方にチラシを配らせてもらっています。



施設を見せていただいたとき、厨房が独立しておらず出入り自由になっていました。これは生活支援のひとつとして利用者と一緒に調理することもありますが、調理することもあるためです。また、それぞれ担当が食事作りをするので、男性スタッフも調理が出来ないとダメなのだそうです。

矢板の元気印

●よさこいソーランの踊りの会があるようですが？

私がいきいきクラブと地域の皆さんに声をかけ、「楽しく踊ろう会」と名称として活躍。その一方で、よさこいソーランの踊りを矢板音頭に取り入れ、踊り方を自ら創意工夫して振り付けました。「よさこい矢板」と名付け、仲間を募って「はしか地蔵まつり」や「矢板市ふるさとまつり」などでその華やかな踊りを披露しています。



また、君島さんが師事している先生のよさこいソーラン会は、君島さん自身も参加した東京のよさこいダンス大会で日本一に輝いています。

●中いきいきクラブの活動について伺います。
中地区の老人会は、以前は七十人を超える団体でしたが、年ごとに会員が減り、休止状態になってしまいました。

当時の区長さんと私たちが中心になって六年前に再結成して、現在約五十人の会員となっています。地域内の公園の草取りやはしか地蔵まつりの手伝いなどを行っています。

「よさこいソーランの踊りで地域おこし」

君島藤子さん（中）

●元気の秘訣は何ですか？
毎朝、散歩を兼ねて御前原公園に出かけ夫婦でゲーム

を付け、立ち上げました。当初は十七人からのスタートでしたが、現在は地域外からも参加者が増え多いときは五十人を超えます。本格的に活動を始めたのは、三年前からです。去年は十三回ほど活動しています。

●今後の抱負を聞かせてください。
「楽しく踊ろう会」の仲間をもっと増やしていくことです。

踊りの披露や練習を通じて、会員の皆さんがリズムに合わせ楽しく元気に体を動かして、健康で活躍できるのをとても嬉しく思い、この活動を一年でも長く続けられるよう頑張っています。

●編集後記
あけましておめでとうございます。今号の矢板高校で市内3校の高校生特集が一巡しました。それぞれの学校の特色が出ていました。また中学生も頑張っていますので今年の矢板は、ヤングパワーに期待ができます。

矢板市当局や文化協会の皆さまにも、私たちの活動に対しご理解を賜り、大変お世話になっていことに感謝しています。今後とも地域の皆さまに喜んでもらえるよう活動を続けていきたいと思ひます。（H）